

受験番号		氏 名	
------	--	-----	--

令和 7 年度登録販売者試験問題（後半）

人体の働きと医薬品 20 問
薬事に関する法規と制度 20 問
医薬品の適正使用と安全対策 20 問

【注意事項】

- 試験問題は、指示があるまで開けないでください。
- 試験問題は、問 61 から問 120 までの 60 問です。
- 試験時間は、午後 3 時 30 分から午後 5 時 30 分までの 120 分間です。
- 問題の印刷が不明瞭なとき、その他必要があるときは、手をあげ係員の指示を受けてください。
- 解答用紙は、この問題とは別に配付しますので、折り曲げたり、汚したりしないでください。
- 問題中の医薬品等に関する記述は、特に記載がない限り、特異的なものを考慮せずに解答してください。
- 問題中の「医薬品医療機器等法」、「医薬品医療機器等法施行令」及び「医薬品医療機器等法施行規則」はそれぞれ次の法令を指します。

問題中の記載	法令の名称
医薬品医療機器等法	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 (昭和 35 年 8 月 10 日法律第 145 号)
医薬品医療機器等法施行令	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律施行令 (昭和 36 年 1 月 26 日政令第 11 号)
医薬品医療機器等法施行規則	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律施行規則 (昭和 36 年 2 月 1 日厚生省令第 1 号)

- 問題中で法律等の文章を引用及び抜粋する場合、促音に該当する「っ」については、小文字で記載します。
(例) 「あつては、」→「あっては、」

【解答記入方法】

- 解答用紙への記入は、B 又は HB の黒鉛筆、シャープペンシルを使用してください。
また、記載内容を訂正する場合は、消しゴムできれいに消してから記入してください。
- 解答用紙には、氏名、ふりがな、受験番号を正確に記入し、受験番号については、対応する数字の○欄を塗りつぶしてください。
- 試験問題は 5 者択一と 4 者択一のものがありますが、解答用紙はすべて 5 択まであります。
4 者択一問題で 5 番の解答欄を塗りつぶさないようご注意ください。
- 問に対する答えは 1 つです。2 つ以上塗りつぶした場合は不正解となります。
- 解答は、解答用紙の解答欄の該当する番号を塗りつぶしてください。
例えば、問 1 の問題に対して「3」と解答する場合は、次の(例)のように問 1 の解答欄の③を塗りつぶしてください。また、正答は○をはっきりと、濃く、塗りつぶしてください。

(例)

問題番号	解	答	欄
問 1	①	②	● ④ ⑤

(悪い例)



人体の働きと医薬品

問 61

消化器系に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 消化器系は、飲食物を消化して生命を維持していくため必要な栄養分として吸収し、その残滓^しを体外に排出する器官系である。
- b 食道の上端と下端には括約筋があり、胃の内容物が食道や咽頭に逆流しないように防いでいる。胃液が食道に逆流すると、むねやけが起きる。
- c 胃は、上腹部にある中空の臓器で、中身が空の状態で扁平^{へん}に縮んでいるが、食道から内容物が送られてくると、その刺激に反応して胃壁の平滑筋が収縮する。
- d 膵臓^{すい}は、胃の後下部に位置する細長い臓器で、膵液^{すい}を十二指腸へ分泌する。膵液は弱アルカリ性で、胃で酸性となった内容物を中和するのに重要である。また、膵臓^{すい}は、消化腺であるとともに、血糖値を調節するホルモン等を血液中に分泌する内分泌腺でもある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 62

肝臓に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 小腸で吸収されたブドウ糖は、血液によって肝臓に運ばれて果糖として蓄えられる。
- b 脂溶性ビタミンであるビタミンAやD等のほか、ビタミンB 6やB 1 2等の水溶性ビタミンの貯蔵臓器でもある。
- c アルコールは、胃や小腸で吸収されるが、肝臓へと運ばれて一度酢酸に代謝されたのち、さらに代謝されてアセトアルデヒドとなる。
- d 必須アミノ酸以外のアミノ酸を生合成することができる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 63

呼吸器系に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 呼吸器系は、呼吸を行うための器官系で、鼻腔^{くう}、咽頭^{くう}、喉頭、気管、気管支、肺からなる。鼻腔から気管支までの呼気及び吸気の通り道を気道という。
- b 鼻腔の内壁には粘液分泌腺が多く分布し、鼻汁を分泌する。鼻汁にはリゾチームが含まれ、気道の防御機構の一つとなっている。
- c 咽頭の後壁には扁桃^{へん}があり、粘膜表面が凸凹している。扁桃はリンパ組織が集まってできていて、気道に侵入してくる細菌、ウイルス等に対する免疫反応が行われる。
- d 肺自体には肺を動かす筋組織がないため、自力で膨らんだり縮んだりするのではなく、横隔膜や肋間筋^{ろっ}によって拡張・収縮して呼吸運動が行われている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 64

循環器系に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 循環器系は、体液を体内に循環させ、酸素、栄養分等を全身の組織へ送り、老廃物を排泄^{せつ}器官へ運ぶための器官系である。
- b 心臓の内部は、上部左右の心房、下部左右の心室の4つの空洞に分かれている。心房で血液を集めて心室に送り、心室から血液を拍出する。このような心臓の動きを拍動という。
- c 消化管壁を通っている毛細血管の大部分は、門脈と呼ばれる血管に集まって心臓に入る。
- d 脾臓^ひは、握りこぶし大のスポンジ状臓器で、胃の前方の右下腹部に位置する。主な働きは、脾臓内^ひを流れる血液から古くなった白血球を濾し取って処理することである。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問 65

泌尿器系に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 腎臓は、横隔膜の下、背骨の左右両側に位置する一対の空豆状の臓器で、内側中央部のくびれた部分に尿管、動脈、静脈、リンパ管等がつながっている。
- 2 腎小体では、肝臓で脂肪酸が分解されて生成する尿素など、血液中の老廃物が濾過され、原尿として尿細管へ入る。
- 3 副腎は、左右の腎臓の上部にそれぞれ附属し、皮質と髄質の2層構造からなる。副腎皮質では、自律神経系に作用するアドレナリン（エピネフリン）とノルアドレナリン（ノルエピネフリン）が産生・分泌される。
- 4 尿が膀胱に溜まってくると刺激が脳に伝わって尿意が生じる。膀胱括約筋が収縮すると、同時に膀胱壁の排尿筋が弛緩し、尿が尿道へと押し出される。

問 66

目に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 角膜に射し込んだ光は、角膜、房水、水晶体、硝子体を透過しながら屈折して網膜に焦点を結ぶ。
- 2 厚みを変化させることによって遠近の焦点調節を行う水晶体は、その周りを囲んでいる毛様体の収縮・弛緩によって、近くのものを見るときには扁平になり、遠くのものを見るときには丸く厚みが増す。
- 3 視細胞には、色を識別する細胞と、わずかな光でも敏感に反応する細胞の二種類がある。後者が光を感じる反応にはビタミンAが不可欠であるため、ビタミンAが不足すると夜間視力の低下（夜盲症）を生じる。
- 4 メガネやコンタクトレンズが合っていなかったり、神経性の疲労（ストレス）、睡眠不足、栄養不良等が要因となって、慢性的な目の疲れに肩こり、頭痛等の全身症状を伴う場合を眼精疲労という。

問 67

血液に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 血液の粘稠性は、主として血中脂質量で決まり、血漿の水分量や赤血球の量はほとんど影響を与えない。
- 2 リンパ球は、白血球の約1／3を占め、細菌、ウイルス等の異物を認識するB細胞リンパ球と、それらに対する抗体を産生するT細胞リンパ球とがある。
- 3 単球は、白血球の約5％と少ないが最も大きく、強い食作用を持つ。血管壁を通り抜けて組織の中に入り込むことができ、組織の中ではマクロファージ（貪食細胞）と呼ばれる。
- 4 血管が損傷すると、損傷部位に血小板が粘着、凝集して傷口を覆う。このとき血小板から放出される酵素によって血液を凝固させる一連の反応が起こり、血漿タンパク質の一種であるフィブリンが傷口で重合して線維状のフィブリノゲンとなる。

問 68

鼻及び耳に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 鼻は、嗅覚情報の受容器官で、空気中を漂う物質を鼻腔内に吸い込み、その化学的刺激を感じとる。また、鼻腔は、線毛を持たない粘膜で覆われている。
- b 鼻の周囲の骨内には、骨の強さや形を保ちつつ重量を軽くするため、鼻腔に隣接した目と目の間、額部分、頬の下、鼻腔の奥に空洞があり、それらを総称して副鼻腔という。
- c 内耳は、外耳と中耳をつなぐ部分で、鼓膜、鼓室からなる。
- d 前庭の内部は、リンパ液で満たされており、リンパ液の動きが平衡感覚として感知される。乗物酔い（動揺病）は、乗り物に乗っているとき反復される加速度刺激や動揺によって、平衡感覚が混乱して生じる身体の変調である。

- 1 (a、c) 2 (b、c) 3 (b、d) 4 (a、d)

問 69

外皮系に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 皮膚の熱交換機能は、体温を一定に保つため重要な役割を担っている。体温が上がり始めると、皮膚を通っている毛細血管が収縮することで、体外へより多くの熱を排出する。
- 2 皮膚は、表皮、真皮、皮下組織の3層構造からなる。表皮は最も外側にある角質層と生きた線維芽細胞の層に分けられる。
- 3 皮膚の色は、表皮や真皮に沈着したメラニン色素によるものである。メラニン色素は、表皮の最下層にあるメラニン産生細胞（メラノサイト）で産生され、太陽光に含まれる紫外線から皮膚組織を防護する役割がある。
- 4 真皮の下には皮下組織があり、肥満細胞が多く集まって皮下脂肪層となっている。皮下脂肪層は、外気の熱や寒さから体を守るとともに、衝撃から体を保護するほか、脂質としてエネルギー源を蓄える機能がある。

問 70

骨格系に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 骨には、骨格筋の収縮を効果的に体^くの運動に転換する運動機能がある。
- b 骨の関節面は弾力性に富む柔らかな軟骨層（関節軟骨）に覆われ、これが衝撃を和らげ、関節の動きを滑らかにしている。
- c 骨組織を構成する無機質は骨に硬さを与え、有機質は骨の強^{じん}靱さを保つ。
- d 骨吸収と骨形成は、成長が停止した後は行われなくなる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 71

筋組織に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 筋組織は、その機能や形態によって、骨格筋、平滑筋、心筋に分類される。骨格筋及び平滑筋は、自分の意識どおりに動かすことができる随意筋であるが、心筋は意識的にコントロールできない不随意筋である。
- 2 筋組織は神経からの指令によって収縮するが、随意筋は自律神経系で支配されるのに対して、不随意筋は体性神経系に支配されている。
- 3 筋組織は筋細胞と結合組織からできているのに対して、腱は結合組織のみでできているため、伸縮性はあまりない。
- 4 平滑筋は、筋線維を顕微鏡で観察すると横縞模様（横紋）が見えるので横紋筋とも呼ばれる。

問 72

脳や神経系の働きに関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 身体の間々の組織は刺激によって反射的に動くことができるが、実際の間々の身体は間々の部位が単独で動いているものではなく総合的に制御されており、このような制御する部分を中枢といい、一方、中枢によって制御される部分を末梢と呼ぶ。
- b 自律神経系は、交感神経系と副交感神経系からなる。概ね、交感神経系は体が食事や休憩等の安息状態となるように働き、副交感神経系は体が闘争や恐怖等の緊張状態に対応した態勢をとるように働く。
- c 脳内には多くの血管が通っており、脳の血管は末梢に比べて物質の透過に関する選択性が低い。
- d 中枢神経系は脳と脊髄から構成される。脳は、頭の間部から下後方部にあり、知覚、運動、記憶、情動、意思決定等の働きを行っている。脳の間部には、自律神経系、ホルモン分泌等の様々な調節機能を担っている部位（視床下部など）がある。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問 73

医薬品の有効成分の吸収に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 小腸で吸収される有効成分の吸収量や吸収速度は、消化管内容物や他の医薬品の作用によって影響を受ける。
- 2 坐剤は、肛門から医薬品を挿入することにより、大腸内で溶解させ、絨毛のある内壁粘膜から有効成分を吸収させるものである。
- 3 鼻腔の粘膜に医薬品を適用する場合、その成分は循環血液中に移行しやすいが、一般用医薬品には全身作用を目的とした点鼻薬はない。
- 4 徐放性製剤は、服用後の作用を持続させるため、有効成分がゆっくりと溶出するように作られた製剤である。

問 74

医薬品の副作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ショック（アナフィラキシー）は、生体異物に対する即時型のアレルギー反応の一種である。原因物質によって発生頻度は異なり、医薬品の場合、以前にその医薬品によって蕁麻疹等のアレルギーを起こしたことがある人で起きる可能性が高い。
- b 皮膚粘膜眼症候群（スティーブンス・ジョンソン症候群）は、38℃以上の高熱を伴って、発疹・発赤、火傷様の水泡等の激しい症状が比較的短時間のうちに全身の皮膚、口、眼等の粘膜に現れる病態で、発症機序の詳細は不明である。また、発症の可能性のある医薬品の種類も多いため、発症の予測は極めて困難である。
- c 中毒性表皮壊死融解症（TEN、ライエル症候群）は、38℃以上の高熱を伴って広範囲の皮膚に発赤が生じ、全身の10%以上に火傷様の水泡、皮膚の剥離、びらん等が認められ、かつ、口唇の発赤・びらん、眼の充血等の症状を伴う病態で、皮膚粘膜眼症候群と関連のある病態と考えられている。
- d 両眼に現れる急性結膜炎は、皮膚や粘膜の変化とほぼ同時期又は半日～1日程度先行して生じることが知られているので、そのような症状が現れたときは、皮膚粘膜眼症候群又は中毒性表皮壊死融解症の前兆である可能性を疑うことが重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 75

薬の代謝、排泄に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

代謝とは、物質が体内で化学的に変化することであるが、有効成分も循環血液中へ移行して体内を循環するうちに徐々に代謝を受けて、分解されたり、体内の他の物質が結合するなどして構造が変化する。その結果、作用を失ったり（不活性化）、作用が現れたり（代謝的活性化）、あるいは体外へ排泄されやすい（ a ）に変化したりする。

排泄とは、代謝によって生じた物質（代謝物）が尿等で体外へ排出されることであり、有効成分は未変化体のままで、あるいは代謝物として、腎臓から尿中へ、肝臓から（ b ）中へ、又は肺から呼気中へ排出される。体外への排出経路としては、その他に汗中や母乳中などがあるが、体内からの消失経路としての意義は小さい。

	a	b
1	血漿タンパク質との複合体	血液
2	血漿タンパク質との複合体	胆汁
3	脂溶性の物質	胆汁
4	水溶性の物質	胆汁
5	水溶性の物質	血液

問 76

医薬品の剤形及び適切な使用方法に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 カプセル剤は、カプセルの原材料として広く用いられているカゼインがブタなどのタンパク質を主成分としているため、カゼインに対してアレルギーを持つ人は使用を避けるなどの注意が必要である。
- 2 貼付剤は、皮膚に貼り付けて用いる剤形であり、テープ剤及びパップ剤がある。適用部位に有効成分が一定時間留まるため、薬効の持続が期待できる。
- 3 経口液剤は、有効成分の血中濃度が上昇しやすいため、習慣性や依存性がある成分が配合されているものの場合、本来の目的と異なる不適正な使用がなされることがある。
- 4 スプレー剤は、有効成分を霧状にする等して局所に吹き付ける剤形である。手指等では塗りにくい部位や、広範囲に適用する場合に適している。

問 77

次の医薬品の吸収部位のうち、吸収された有効成分が全身循環に入る前に肝臓で代謝を受けるものはどれか。

- 1 皮膚
- 2 小腸
- 3 口腔^{くわう}
- 4 直腸（直腸上部を除く。）
- 5 鼻腔^{くわう}

問 78

医薬品の副作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 肝機能障害の主な症状に、全身の倦怠感^{けん}、黄疸^{だん}のほか、発熱^{しん}、発疹^{そうよう}、皮膚の掻痒感、吐きけ等があり、これらは軽度の肝機能障害の場合であっても自覚症状として現れやすい。
- b 一般用医薬品による副作用は、長期連用のほか、不適切な医薬品の併用や医薬品服用時のアルコール飲用等が原因で起きる場合があり、医薬品を使用する時の状況に応じて適切な指導を行うことが重要である。
- c 医薬品の使用が原因で血液中の白血球（好中球）が減少し、細菌やウイルスの感染に対する抵抗力が弱くなって、突然の高熱、悪寒、喉の痛み、口内炎^{けん}、倦怠感等の症状を呈することがある。ステロイド性抗炎症薬や抗癌薬^{がん}などが、そのような易感染性をもたらすことが知られている。
- d 光線過敏症の症状は、医薬品が触れた部分だけに生じ、貼付剤の場合は剥がした後でも発症することがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 79

医薬品の副作用に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品の副作用が原因の無菌性髄膜炎は、全身性エリテマトーデス、混合性結合組織病、関節リウマチ等の基礎疾患がある人で発症リスクが高い。
- 2 イレウス様症状は、胃や十二指腸の粘膜組織が傷害されて、粘膜組織の一部が粘膜筋板を超えて欠損する状態であり、医薬品の副作用により生じることも多い。
- 3 間質性肺炎は、一般的に、医薬品の使用開始から1～2週間程度で起きることが多い。かぜや気管支炎の症状と区別が難しいこともあり、細心の注意を払ってそれらとの鑑別が行われている。
- 4 喘息では、原因となる医薬品の使用後、短時間（1時間以内）のうちに鼻水・鼻づまりが現れ、続いて咳、喘鳴（息をするとき喉がゼーゼー又はヒューヒュー鳴る）及び呼吸困難を生じる。

問 80

医薬品の副作用に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a うっ血性心不全とは、心筋の自動性や興奮伝導の異常が原因で心臓の拍動リズムが乱れる病態で、めまい、立ちくらみ、全身のだるさ（疲労感）、動悸、息切れ、胸部の不快感、脈の欠落等の症状が現れる。
- b 交感神経系の機能を抑制する作用がある成分が配合された医薬品を使用すると、尿が出にくい、尿が少ししか出ない、残尿感がある等の症状を生じることがある。
- c 接触皮膚炎は、いわゆる「肌に合わない」という状態であり、外来性の物質が皮膚に接触することで現れる炎症である。同じ医薬品が触れても発症するか否かはその人の体質によって異なる。
- d 薬疹は、医薬品によって引き起こされるアレルギー反応の一種で、発疹・発赤等の皮膚症状を呈する場合をいう。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

薬事に関する法規と制度

問 81

医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 動物の疾病の治療に使用されることが目的とされている物は、医薬品医療機器等法の規制対象外である。
- b 日本薬局方とは、厚生労働大臣が医薬品の性状及び品質の適正を図るため、薬事審議会の意見を聴いて、保健医療上重要な医薬品について、必要な規格・基準及び標準的試験法等を定めたものである。
- c 「無承認無許可医薬品」は、医薬品医療機器等法第2条第1項で定義する医薬品に該当する。
- d 医薬品は、医薬品の「製造業」の許可を受けた者でなければ製造販売をしてはならない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 82

一般用医薬品及び要指導医薬品に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 要指導医薬品は、適正な使用のために薬剤師の対面による情報の提供及び薬学的知見に基づく指導が行われることが必要なものである。
- b 第3類医薬品は、その成分や使用目的等から、「その副作用等により日常生活に支障を来す程度の健康被害が生ずるおそれがある」保健衛生上のリスクが比較的高い一般用医薬品である。
- c 配置販売業者は、薬剤師が区域管理者であっても、要指導医薬品の販売を行うことができない。
- d 一般用医薬品及び要指導医薬品における効能効果の表現は、診断疾患名（例えば、胃炎、胃・十二指腸潰瘍等）で示されている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 83

毒薬及び劇薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 毒薬とは、医薬品医療機器等法第44条第1項の規定に基づき、精神毒性が強いものとして厚生労働大臣が指定する医薬品をいう。
- b 一般用医薬品には、現在のところ、毒薬に該当するものはないが、劇薬に該当するものがある。
- c 劇薬については、それを収める直接の容器又は直接の被包に、赤地に白枠、白字をもって、当該医薬品の品名及び「劇」の文字が記載されていなければならない。
- d 毒薬又は劇薬を、18歳未満の者その他安全な取扱いに不安のある者に交付することは禁止されている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問 84

医薬品医療機器等法に規定される生物由来製品に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 厚生労働大臣が薬事審議会の意見を聴いて、保健衛生上特別の注意を要するものとして、製品の使用によるアレルギーの発症リスクに着目して指定する。
- 2 現在のところ、生物由来製品として指定された一般用医薬品又は要指導医薬品はない。
- 3 医薬品は指定の対象だが、医療機器は指定の対象ではない。
- 4 人に由来するものを原料又は材料として製造されるものはない。

問 85

医薬品医療機器等法の規定に基づき、一般用医薬品の直接の容器又は直接の被包に記載されていなければならない事項として、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 日本薬局方に収載されている医薬品以外の医薬品における有効成分の名称及びその分量
- b 製造年月日
- c 配置販売品目以外の一般用医薬品にあつては、「店舗専用」の文字
- d 配置販売品目にあつては、「配置」の文字

1 (a、c) 2 (b、c) 3 (b、d) 4 (a、d)

問 86

医薬部外品及び化粧品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬部外品は、その効能効果があらかじめ定められた範囲内であっても、医薬品的な効能効果を表示・標榜^{ほう}することは認められていない。
- b 医薬部外品には、脱毛の防止、育毛又は除毛を目的とする物がある。
- c 医薬部外品を販売する場合には、販売業の許可が必要である。
- d 化粧品を業として製造販売する場合には、製造販売業の許可を受けた者が、あらかじめ品目ごとの届出を行う又は承認を得る必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 87

第 1 欄の記述は、食品表示基準に基づく栄養機能食品の栄養成分を摂取する上での注意喚起表示に関するものである。該当する栄養成分として正しいものは第 2 欄のどれか。

第 1 欄

本品は、多量摂取により疾病が治癒したり、より健康が増進するものではありません。
多量に摂取すると軟便（下痢）になることがあります。1 日の摂取目安量を守ってください。
乳幼児・小児は本品の摂取を避けてください。

第 2 欄

- 1 鉄
- 2 ビタミン D
- 3 ビタミン A
- 4 パントテン酸
- 5 マグネシウム

問 88

食品表示基準に基づく栄養機能食品における栄養成分と栄養機能表示との関係について、
（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、同じ記号の（ ）
内には同じ字句が入る。

(栄養成分)		(栄養機能表示)	
(a)	—	(a)	は、胎児の正常な発育に寄与する栄養素です。
亜鉛	—	亜鉛は、(b)	のに必要な栄養素です。
ビタミン B 1 2	—	ビタミン B 1 2 は、(c)	栄養素です。

	a	b	c
1	葉酸	味覚を正常に保つ	赤血球の形成を助ける
2	ナイアシン	血液循環を正常に保つ	骨の形成を助ける
3	葉酸	血液循環を正常に保つ	骨の形成を助ける
4	ナイアシン	味覚を正常に保つ	赤血球の形成を助ける
5	葉酸	味覚を正常に保つ	骨の形成を助ける

問 89

薬局に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品を取り扱う場所であって、薬局として開設の許可を受けていないものについては、病院又は診療所の調剤所を除き、薬局の名称を付してはならない。
- b 薬局で薬事に関する実務に従事する薬剤師を管理者とすることができない場合には、その薬局において一般用医薬品の販売又は授与に関する業務に従事する登録販売者を管理者にすることができる。
- c 調剤を実施する薬局は、医療法（昭和23年法律第205号）における医療提供施設としても位置づけられている。
- d 薬局では、医薬品をあらかじめ小分けし、販売する行為が認められている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 90

店舗販売業に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 店舗販売業者は、その店舗に薬剤師が従事している場合であっても、要指導医薬品を販売することはできない。
- b 店舗管理者は、その店舗の所在地の都道府県知事（その店舗の所在地が保健所を設置する市又は特別区の区域にある場合においては、市長又は区長。）の許可を受けた場合、その店舗以外の場所で業として店舗の管理その他薬事に関する実務に従事することができる。
- c 店舗販売業の許可は、5年ごとに、その更新を受けなければ、その期間の経過によって、その効力を失う。
- d 店舗管理者は、保健衛生上支障を生ずるおそれがないよう、その店舗の業務につき、店舗販売業者に対し、必要な意見を書面により述べなければならない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 91

配置販売業及びその配置員に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 配置販売業者又はその配置員は、その住所地の都道府県知事が発行する身分証明書の交付を受け、医薬品の配置販売に従事する際にはこれを携帯しなければならない。
- b 配置販売業者は、その住所地の都道府県知事から配置販売業の許可を受けることで、その許可をもって当該都道府県以外の区域においても配置販売を行うことができる。
- c 配置販売業者は、一般用医薬品のうち経年変化が起こりにくいこと等の基準（配置販売品目基準（平成21年厚生労働省告示第26号））に適合するもの以外の医薬品を販売してはならない。
- d 配置販売業者は、特定の購入者の求めに応じて医薬品の包装を開封して分割販売することはできるが、医薬品をあらかじめ小分けして販売することは認められていない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 92

一般用医薬品のリスク区分に応じた情報提供等に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 第1類医薬品を購入しようとする者から説明を要しない旨の意思の表明があり、薬剤師が、当該第1類医薬品が適正に使用されると認められると判断した場合には、必要な情報を提供せずに販売することが認められている。
- 2 第1類医薬品を販売する場合には、医薬品の販売に従事する薬剤師に、対面により、必要な情報提供を行わせていれば、書面を用いて情報提供を行わなくてもよい。
- 3 指定第2類医薬品を販売する場合には、医薬品の販売に従事する薬剤師又は登録販売者に、禁忌事項等について書面を用いて情報提供させなければならない。
- 4 第3類医薬品を購入しようとする者から相談があった場合には、医薬品の販売に従事する薬剤師又は登録販売者に、必要な情報を提供させることが望ましいものの、特に法令上規定は設けられていない。

問 93

薬局及び店舗販売業における医薬品の陳列に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、第1類医薬品、第2類医薬品及び第3類医薬品を薬効分類ごとに陳列しなければならない。
- b 指定第2類医薬品は、薬剤師又は登録販売者による積極的な情報提供の機会がより確保されるよう、陳列方法を工夫する等の対応が求められる。
- c 第1類医薬品は、薬局等構造設備規則に規定する「情報提供を行うための設備」から7メートル以内の範囲に陳列することが求められる。
- d 要指導医薬品は、必ず鍵をかけた陳列設備に陳列しなければならない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 94

医薬品医療機器等法に基づき、店舗販売業者が当該店舗の見やすい場所に掲示しなければならない事項として、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 指定第2類医薬品を購入し、又は譲り受けようとする場合は、当該指定第2類医薬品の禁忌を確認すること及び当該指定第2類医薬品の使用について薬剤師又は登録販売者に相談することを勧める旨
- b 店舗に勤務する登録販売者の氏名及び販売従事登録番号
- c 個人情報の適正な取扱いを確保するための措置
- d 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に関する解説

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 95

濫用等のおそれがあるものとして厚生労働大臣が指定する医薬品を販売する際、店舗販売業者が、従事する薬剤師又は登録販売者に確認させなければならない事項の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 当該医薬品を購入しようとする者の他の薬局開設者等からの当該医薬品及び当該医薬品以外の濫用等のおそれのある医薬品の購入又は譲受けの状況
- b 当該医薬品を購入しようとする者が若年者である場合にあっては、当該者の氏名
- c 当該医薬品を購入しようとする者が若年者である場合にあっては、当該者の住所
- d 当該医薬品を購入しようとする者が、適正な使用のために必要と認められる数量を超えて当該医薬品を購入しようとする場合は、その理由

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 96

店舗販売業者が医薬品の特定販売を行うことについて、インターネットを利用して広告する場合、ホームページに見やすく表示しなければならない情報として、誤っているものはどれか。

- 1 特定販売を行う一般用医薬品の使用期限
- 2 一般用医薬品の陳列の状況を示す写真
- 3 現在勤務している薬剤師又は登録販売者の別、その氏名及び写真
- 4 店舗の主要な外観の写真
- 5 開店時間と特定販売を行う時間が異なる場合にあっては、その開店時間及び特定販売を行う時間

問 97

医薬品医療機器等法及び医薬品等適正広告基準に基づく医薬品の広告に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 公的機関が公認している旨の広告は行ってはならないが、医療機関が推薦している旨の広告については、事実であれば行うことができる。
- b 医薬品の製造販売業者は、医療関係者に対して承認前の医薬品の名称に関する広告を行うことができる。
- c 医薬品医療機器等法第66条（誇大広告等）に関する規定は、広告等の依頼主だけが対象であり、その広告等に関与するその他の者は対象外である。
- d 医薬品の購入やホームページの利用の履歴等の情報に基づき、自動的に特定の医薬品の購入を勧誘する方法により医薬品を広告することは差し支えない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問 98

医薬品の販売方法等に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 配置販売業において、医薬品を先用後利によらず現金売りを行うことは、顧客の求めに応じたものであれば配置による販売行為に当たる。
- b キャラクターグッズ等の景品類を提供して販売することは、不当景品類及び不当表示防止法の限度内であれば認められている。
- c 薬局及び店舗販売業において、許可を受けた薬局又は店舗以外の場所に医薬品を貯蔵し、そこを拠点として販売等に供することは認められていない。
- d 組み合わせ販売においては、個々の医薬品等の外箱等に記載された医薬品医療機器等法に基づく記載事項が、組み合わせ販売のため使用される容器の外から見えない状態であっても販売することができる。

- 1 (a、c) 2 (b、c) 3 (b、d) 4 (a、d)

問 99

次のうち、化粧品で表示・^{ぼう}標榜することが認められている効能効果として誤っているものはどれか。

- 1 香りにより毛髪、頭皮の不快臭を抑える。
- 2 フケ、カユミがとれる。
- 3 ひげを剃りやすくする。
- 4 肌の新陳代謝を促進する。
- 5 乾燥による小ジワを目立たなくする。

問 100

医薬品医療機器等法に基づく行政庁による監視指導及び処分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。なお、本問において、「都道府県知事」とは、「都道府県知事（薬局又は店舗販売業にあっては、その薬局又は店舗の所在地が保健所を設置する市又は特別区の区域にある場合においては、市長又は区長。）」とする。

- a 医薬品の製造販売業者が、その医薬品の使用によって保健衛生上の危害が発生し、又は拡大するおそれがあることを知ったときは、行政庁による命令があるまで、これを防止するために廃棄、回収、販売の停止、情報の提供その他必要な措置を講じることができない。
- b 都道府県知事は、区域管理者について、その者に薬事に関する法令又はこれに基づく処分に違反する行為があったとき、又はその者が管理者として不適当であると認めるときは、その配置販売業者に対して、その変更を命ずることができる。
- c 都道府県知事は、薬事監視員に、薬局開設者が医薬品を業務上取り扱う場所に立ち入り、無承認無許可医薬品、不良医薬品又は不正表示医薬品等の疑いのある物を、全て収去させなければならない。
- d 都道府県知事は、店舗販売業者に対して、一般用医薬品の販売等を行うための業務体制が基準（薬局並びに店舗販売業及び配置販売業の業務を行う体制を定める省令（昭和39年厚生省令第3号））に適合しなくなった場合において、その業務体制の整備を命ずることができる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

医薬品の適正使用と安全対策

問 101

一般用医薬品の適正使用情報に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、効能・効果、用法・用量、起こり得る副作用等、その適正な使用のために必要な情報（適正使用情報）を伴って初めて医薬品としての機能を発揮するものである。
- b 薬剤師又は登録販売者が、購入者等へ情報提供を行う際は、添付文書や製品表示に記載されている内容から、積極的な情報提供が必要と思われる事項に焦点を絞り、効果的かつ効率的な説明がなされることが重要である。
- c 一般用医薬品の添付文書や製品表示に記載されている適正使用情報は、医薬品の販売に従事する薬剤師や登録販売者向けの専門的な表現で記載されている。
- d 医薬品医療機器等法の規定により、一般用医薬品には、添付文書又はその容器若しくは被包に、「用法、用量その他使用及び取扱い上の必要な注意」等の記載が義務づけられている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 102

一般用医薬品の添付文書に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 添付文書の内容は、医薬品の有効性・安全性等に係る新たな知見、使用に係る情報に基づき、1年に1回定期的に改訂がなされている。
- 2 重要な内容が変更された場合には、改訂年月を記載するとともに改訂された箇所を明示することとされており、以前からその医薬品を使用している人が、添付文書の変更箇所に注意を払うことができるようになっている。
- 3 令和3年8月1日から、医療用医薬品への紙の添付文書の同梱を廃止し、注意事項等情報は電子的な方法により提供されることとなったが、一般用医薬品には、引き続き紙の添付文書が同梱される。
- 4 販売名に薬効名が含まれているような場合には、薬効名の記載は省略されることがある。

問 103

医薬品の製品表示に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 1 回服用量中 0.1mL を超えるアルコールを含有する内服液剤(滋養強壮を目的とするもの)については、アルコールを含有する旨及びその分量が記載されている。
- b 適切な保存条件の下で製造後 3 年を超えて性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品において、使用期限の法的な表示義務はないが、流通管理等の便宜上、外箱等に記載されるのが通常となっている。
- c 外箱には医薬品医療機器等法の規定による法定表示事項のみが記載され、他の法令に基づく製品表示が記載されることはない。
- d 配置販売される医薬品では、使用期限の代わりに「消費期限」として記載される。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 104

医薬品の安全対策に関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、同じ記号の () 内にはいずれも同じ字句が入る。

(a) の使用による (b) については、1991 年 4 月以降、使用上の注意に記載されていたが、その後、(a) とインターフェロン製剤の併用例による (b) が報告されたことから、1994 年 1 月、インターフェロン製剤との併用を禁忌とする旨の使用上の注意の改訂がなされた。しかし、それ以降も慢性肝炎患者が (a) を使用して (b) を発症し、死亡を含む重篤な転帰に至った例もあったことから、1996 年 3 月、厚生省 (当時) より関係製薬企業に対して、(c) が指示された。

	a	b	c
1	しょうさいこうとう 小柴胡湯	間質性肺炎	緊急安全性情報の配布
2	だいさいこうとう 大柴胡湯	腎臓機能障害	緊急安全性情報の配布
3	しょうさいこうとう 小柴胡湯	間質性肺炎	用法及び用量の変更
4	だいさいこうとう 大柴胡湯	間質性肺炎	製品の回収
5	しょうさいこうとう 小柴胡湯	腎臓機能障害	製品の回収

問 105

一般用医薬品の添付文書の使用上の注意に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 使用上の注意は、「してはいけないこと」、「相談すること」及び「その他の注意」から構成され、適正使用のために重要と考えられる項目が前段に記載されている。
- b 小児が使用した場合に特異的な有害作用のおそれがある成分を含有する医薬品では、通常、「相談すること」の項に対象となる年齢が記載されている。
- c 重篤な副作用として、皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死融解症^{ぜん}、喘息等が掲げられている医薬品では、アレルギーの既往歴がある人等は使用しないこととして記載されている。
- d 小児に使用される医薬品においては、「服用前後は飲酒しないこと」等、小児では通常当てはまらない内容が記載されることはない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 106

医薬品の安全性情報に関する記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

安全性速報は、医薬品、医療機器又は再生医療等製品について一般的な使用上の注意の改訂情報よりも迅速な注意喚起や適正使用のための対応の注意喚起が必要な状況にある場合に、（ a ）からの命令、指示、（ b ）の自主決定等に基づいて作成され、（ c ）とも呼ばれる。

	a	b	c
1	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	製造販売業者	オレンジレーター
2	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	卸売販売業者	ブルーレーター
3	厚生労働省	製造業者	イエローレーター
4	厚生労働省	製造販売業者	ブルーレーター
5	都道府県	卸売販売業者	イエローレーター

問 107

一般用検査薬の添付文書に記載することとされている事項の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 消費者相談窓口
- b 製造販売業者の名称及び所在地
- c キットの内容及び成分・分量
- d 使用目的

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 108

一般用医薬品及び一般用検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品を使用した人が医療機関を受診する際には、その添付文書を持参し、医師や薬剤師に見せて相談がなされることが重要である。
- b 一般用医薬品は、複数の有効成分が配合されている場合が多く、使用方法や効能・効果が異なる医薬品同士でも、同一成分又は類似の作用を有する成分が重複することがある。
- c 一般用検査薬では、その検査結果のみで確定診断はできないので、判定が陽性であれば速やかに医師の診断を受ける旨が添付文書に記載されている。
- d 一般用検査薬の添付文書には、検査結果が陰性であっても何らかの症状がある場合は、再検査するか又は医師に相談する旨等が記載されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 109

医薬品 P L センターに関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品副作用被害救済制度の対象とならないケースのうち、製品不良など、製薬企業に損害賠償責任がある場合には、「医薬品 P L センター」への相談が推奨される。
- b 日本製薬団体連合会において、平成 7 年 7 月の製造物責任法（P L 法）の施行と同時に開設された。
- c 医薬品、医薬部外品及び医療機器に関する苦情の相談を受け付けている。
- d 裁判により迅速な解決に導くことを目的としている。

1（a、b） 2（a、c） 3（b、d） 4（c、d）

問 110

医薬品医療機器等法第 68 条の 10 第 2 項の規定に基づく医薬品の副作用等の報告に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 報告様式は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構ホームページから入手でき、報告の際には、報告様式の記入欄すべてに記入する必要がある。
- b 健康被害と医薬品との因果関係が明確でない場合や医薬品の誤用による健康被害の場合は、報告の対象とならない。
- c 複数の専門家が医薬品の販売等に携わっている場合であっても、当該薬局又は医薬品の販売業において販売等された医薬品の副作用等によると疑われる健康被害の情報に直接接した専門家 1 名から報告書が提出されれば十分である。
- d 郵送、ファクシミリ、電子メールによる報告のほか、ウェブサイトに入力することによる報告も可能である。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 111

医薬品の製造販売業者等が行う安全性等の調査に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 登録販売者は、製造販売業者等が行う情報収集に協力するよう努める必要がある。
- 2 生物由来製品を製造販売する企業が、当該製品又は当該製品の原料又は材料による感染症に関する最新の論文や知見に基づき、当該製品の安全性について評価し、その成果を定期的に国へ報告する制度がある。
- 3 医療用医薬品で使用されていた有効成分を一般用医薬品で初めて配合したものについては、承認条件として承認後の一定期間、安全性に関する調査及び調査結果の報告が求められている。
- 4 既存の医薬品と明らかに異なる有効成分が配合されたものについては、5年を超えない範囲で都道府県知事が承認時に定める一定期間、承認後の使用成績等を製造販売業者等が集積し、都道府県へ提出する制度（再評価制度）が適用される。

問 112

医薬品の副作用情報等の収集、評価及び措置に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度は、約3000の医療機関をモニター施設に指定して、厚生省（当時）が直接副作用報告を受ける「医薬品副作用モニター制度」としてスタートした。
- b 登録販売者は、医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に基づく報告を行う医薬関係者として位置づけられている。
- c 収集された副作用等の情報は、その医薬品の製造販売業者等において評価・検討され、必要な安全対策が図られる。
- d 厚生労働大臣は、薬事審議会の意見を聴いて、効能・効果や用法・用量の一部変更、製造・販売の中止、製品の回収等の安全対策上必要な行政措置を講じている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 113

医薬品副作用被害救済制度の給付に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 用法・用量、使用上の注意に従って使用されていることが、救済給付の対象の基本であり、医薬品の不適正な使用による健康被害については、救済給付の対象とならない。
- b 給付の種類によっては請求期限が定められており、医療費は、支給の対象となる費用の支払いが行われたときから2年を過ぎた分については請求できない。
- c 救済給付業務に必要な費用のうち、給付費については、国庫補助金で賄われている。
- d 副作用を発見した医療機関の給付請求を受け、薬事審議会の諮問・答申を経た後、厚生労働大臣が判定した結果に基づき、各種給付が行われる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 114

次のうち、医薬品副作用被害救済制度の対象であるものはどれか。

- 1 日本薬局方精製水
- 2 いわゆる健康食品
- 3 殺菌消毒剤（人体に直接使用するもの）
- 4 無承認無許可医薬品
- 5 一般用検査薬

問 115

医薬品の安全対策に関する記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

解熱鎮痛成分として（ a ）が配合されたアンプル入りかぜ薬の使用による重篤な（ b ）で、1959年から1965年までの間に計38名の死亡例が発生した。

アンプル剤は他の剤形（錠剤、散剤等）に比べて、血中濃度が（ c ）高値に達するため、通常用量でも副作用を生じやすいことが確認されたことから、1965年、厚生省（当時）より関係製薬企業に対し、アンプル入りかぜ薬製品の回収が要請された。

	a	b	c
1	塩酸フェニルプロパノールアミン	副作用（脳出血）	緩やかに
2	アミノピリン、スルピリン	副作用（脳出血）	緩やかに
3	塩酸フェニルプロパノールアミン	副作用（ショック）	緩やかに
4	アミノピリン、スルピリン	副作用（ショック）	急速に
5	塩酸フェニルプロパノールアミン	副作用（脳出血）	急速に

問 116

医薬品の保管及び取扱い上の注意に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 点眼薬は、長期間の保存に適さないので、家族で共用し、できる限り早期に使い切ることが望ましい。
- b 消毒用アルコールにおける消防法（昭和23年法律第186号）に基づく注意事項については、添付文書において「保管及び取扱い上の注意」として記載されている。
- c 適切な保管がなされないと化学変化や雑菌の繁殖等を生じることがある。
- d 散剤は、変質しやすいため、開封後は冷蔵庫内に保管されるのが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 117

医薬品の適正使用のための啓発活動等に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の適正使用の重要性等に関する啓発は、内容が正しく理解されないおそれがあるため、小中学生に行うべきではない。
- b 「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」を広く普及し、薬物乱用防止を一層推進するため、毎年6月20日から7月19日までの1ヶ月間、国、自治体、関係団体等により、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施されている。
- c 一般用医薬品の乱用をきっかけとして、違法な薬物の乱用につながることもあり、その場合、乱用者自身の健康を害するだけでなく、社会的な弊害を生じるおそれ大きい。
- d 医薬品の持つ特質及びその使用・取扱い等について正しい知識を広く生活者に浸透させることにより、保健衛生の維持向上に貢献することを目的とし、毎年10月17日から23日の1週間を「薬と健康の週間」として、国、自治体、関係団体等による広報活動やイベント等が実施されている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 118

一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の項目中に、「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」と記載することとされている医薬品の主な成分として、正しいものの組み合わせはどれか。

- a スコポラミン臭化水素酸塩水和物
- b ピレンゼピン塩酸塩水和物
- c タンニン酸アルブミン
- d テオフィリン

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 119

一般用医薬品の添付文書の「相談すること」の項目中に、「次の診断を受けた人」として記載することとされている基礎疾患等と医薬品の主な成分との関係の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	(基礎疾患等)		(主な成分)
a	糖尿病	—	ジプロフィリン
b	甲状腺疾患	—	ポビドンヨード
c	心臓病	—	水酸化マグネシウム
d	緑内障	—	ロートエキス

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 120

次の医薬品成分等のうち、一般用医薬品の添付文書の「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「妊婦又は妊娠していると思われる人」と記載することとされているものはどれか。

- 1 プソイドエフェドリン塩酸塩
- 2 デキストロメトルフアン臭化水素酸塩水和物
- 3 オキセサゼイン
- 4 ロートエキスが配合された内服薬
- 5 ロペラミド塩酸塩